

日本多施設共同コホート研究（J-MICC 研究）
平成 29 年度第 3 回運営委員会 議事録

日 時：平成 29 年 11 月 21 日（火） 10:30 ～ 11:30

場 所：名古屋大学医学部 基礎棟 1 階 会議室 1（名古屋市昭和区鶴舞町 65）

出席者（敬称略）：

若井建志、内藤真理子、三上春夫、成松宏人、松尾恵太郎、細野晃弘（鈴木貞夫 代理）、
喜多義邦、高嶋直敬（三浦克之代理）、渡邊能行、有澤孝吉、田中恵太郎、嶽崎俊郎、
古庄憲浩、菱田朝陽、永瀬浩喜 以上 15 名

0. 主任研究者挨拶、前回運営委員会議事録の承認

主任研究者（若井）より、J-MICC 研究も 2005 年の開始以来 13 年目を迎え、コホート研究としての分析が視野に入ったことが述べられ、各地区担当機関の一層の協力が要請された。また運営委員会は今年から年 4 回の開催となり、次回は 2018 年 2 月に予定していることが報告された。さらに前回運営委員会の議事録が承認された。

1. 第二次調査データの提出について（資料 1）

主任研究者より、AMED（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 門脇班における糖尿病リスク予測モデルの検証に必要なこともあり、昨年度（2016年度）までの第二次調査のデータを提出するよう、各地区に再度依頼された。またその際、HbA1c値はJDS値で提出するよう確認された。

2. ベースラインデータとがん罹患追跡データ、GWAS用データのリンクについて（資料 2）

主任研究者より、AMEDに採択された研究開発課題「生活習慣・病態・遺伝子多型に基づく、個人のがんリスク評価」の解析用データセット作成に必要なことから、がん罹患追跡データを追跡調査手順書に従い、中央事務局に提出いただくよう、各地区に依頼された。

3. 「コホート・生体試料支援プラットフォーム」による利用料徴収について（回収資料）

主任研究者より、文部科学省科学研究費「コホート・生体試料支援プラットフォーム」の担当である文部科学省学術研究助成課より、利用料徴収については支援対象研究者の理解が得られるよう、十分な議論の上で進めてほしいとの要請がプラットフォーム代表の今井浩三先生にあったことが報告された。これを受けて、J-MICC研究に基づく研究支援の利用料徴収については、文部科学省や生命科学連携推進協議会の動向を見ながら進めることとした。

4. 食物摂取頻度調査票による栄養素摂取量推定の方法について（資料 4）

主任研究者より、11月11日に行われた食物摂取頻度調査票（FFQ）ワーキンググループにおいて、栄養素摂取量の推定方法について議論されたことが報告された。栄養素摂取量推定について、ワーキンググループで決定した方針を採用することが承認された。

5. ベースラインデータによる横断研究について（資料5）

主任研究者より、ベースラインデータによる横断研究のテーマを募集し（9月29日締切）、現在、重複テーマの調整を中央事務局長（内藤）を中心に行っていることが報告され、テーマの重複の際の調整・決定方針など、これまでの決定事項について確認がなされた。調整の結果、テーマを取り下げることになった申請者には、最初のテーマリスト確定後に再度テーマ申請の機会を設けることとしたことが報告された。

6. GWAS横断研究について（資料6＋回収資料）

主任研究者より、GWAS横断研究について現状が報告された（論文投稿中4件、受理1件）。

また愛知県がんセンターの松尾先生より、愛知県がんセンター病院疫学研究（HERPACC-2）のデータによるJ-MICC研究でのGWAS横断研究の再現性検討（replication）について提案があり承認された。

7. がん罹患追跡データを用いた今後の研究について（資料7）

主任研究者より、がん罹患追跡データを用いた今後の研究について、AMED革新的がん医療実用化研究事業「生活習慣・病態・遺伝子多型に基づく、個人のがんリスク評価」における役割分担と、J-MICC研究におけるテーマ分担とは独立とするが、1) 個人のがんリスク評価モデル作成に必要なが、J-MICC研究でのテーマ募集で応募がない場合、2) J-MICC研究の解析用データセットが完成する前に報告書作成のためのデータ解析が必要である場合、には上記AMED研究班の「全体研究開発計画書」記載の担当分担者がデータ解析を行うことが提案され、承認された。

次に主任研究者より、ベースラインデータとがん罹患追跡データ、およびGWAS用データとがん罹患追跡データをリンクした解析用データセットを、2015年末までのがん罹患を対象とし、2018年度中に作成することが提案された。これに対し委員より、地区によっては数年分をまとめてがん罹患調査をしているなどの事情があることから、2018年度中のデータセット作成は難しいとの意見が出され、さらに検討することとした。また今後の検討課題として、解析用データセットに含める地区のがん罹患登録精度の条件、J-MICC研究のがん罹患全症例を用いた case-cohort studyのためのジェノタイピングの可能性について議論された。

8. GWAS横断研究データ、ベースラインデータによる今後の研究支援について（資料8）

主任研究者より、今後のGWAS横断研究、ベースラインデータによる横断研究のテーマ募集のスケジュールが提案された。GWAS横断研究については、第3回テーマ募集を2017年12月、第4回

を2018年6月に予定しており、第4回にはテーマの公募を行う予定であること、またベースラインデータによる横断研究についても2018年末のテーマ募集（第3回募集）からテーマの公募を実施したい旨が述べられた。これに対し、委員から公募開始時期が早すぎるのではないかと、また被研究支援者にデータセットを配布するのではなく、J-MICC研究参加研究機関に来ていただいてデータ解析をしてもらうのが良いのではないかなどの意見が出され、継続審議とした。

9. 既存の共同研究・研究支援について（回収資料）

中央事務局長より、以下の共同研究・研究支援について進捗が報告された。

- (1) オーダーメイド医療の実現プログラムを通じた、J-MICC研究のGWAS用タイピングデータ・表現型等データ提供
- (2) 症例対照研究の対照として、J-MICC研究のGWAS用タイピングデータ・表現型等データ提供
- (3) Candidate approachによる横断研究の外部研究者公募
- (4) 国際コンソーシアムへの参加、国内プール解析・メタ解析への参加
- (5) がん早期診断マーカー検証の公募

肺腺癌についての募集で3件応募があったことが報告され、採択方針について討議した。

- (6) AMEDゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 門脇班への参画

10. 複数コホート研究実施グループの参画による研究支援について（資料10）

中央事務局長より、J-MICC研究全体が参加する共同研究ではなく、複数コホート研究実施グループの参画による研究支援の流れについて説明された。「コホート・生体試料支援プラットフォーム」の枠組による生体試料提供支援の申請（1件）に対し、中央事務局より運営委員に呼びかけたところ、京都府立医科大学から支援協力の申し出があり、申請者との間で協議を進めていることが報告された。

11. 「コホート・生体試料支援プラットフォーム」研究者（支援対象者）向けシンポジウムについて（資料11）

中央事務局長より、12月21日に東京大学医科学研究所で行われる、「コホート・生体試料支援プラットフォーム」による研究者（支援対象者）向けシンポジウムについて案内があり、参加が呼びかけられた。

12. 「コホート・生体試料支援プラットフォーム」市民公開講座について（資料12）

中央事務局長より、来年3月4日に名古屋大学東山キャンパスで行われる、「コホート・生体試料支援プラットフォーム」の市民公開講座について、内容の案内が行われた。

13. その他

中央事務局長より来年1月15～16日に岩手医科大学で行われるセミナー、「ゲノムコホート研究における遺伝統計学」（コホート・生体試料支援プラットフォーム共催）について、案内と若手研究者を中心とした参加の呼びかけが行われた。